

第 5 次岩倉市総合計画策定に関する団体グループインタビュー調査結果 団体・分野別

■福祉・ボランティア分野（5月28日（火）9：00～10：00）

団体名	団体としての活動・課題	今後 10 年間の問題点・主要課題	今後 10 年間に求められるまちづくりの取組
<ul style="list-style-type: none"> 岩倉市障害者連絡協議会 岩倉市ボランティア連絡協議会 岩倉市民生委員児童委員協議会 岩倉市社会福祉協議会 岩倉市音訳の会 あめんぼ （5 団体、延べ 10 名出席）	<ul style="list-style-type: none"> 役員のなり手が見つからず、障がい者団体の運営が困難になっている。 ボランティア活動や市民活動への理解促進、普及啓発のための機能強化が課題。 高齢化にともない様々な団体でメンバーが減っている。 一般市民の民生委員児童委員への理解や協力が乏しい。 地域の課題を見つめなおすことが求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 親が亡くなったあとの障がい者の自立が大きな課題。 災害発生時、障がい者は避難が難しい。 近年、障がい者福祉に関する助成金が削減され、活動が中途半端になっている。 駅東の再開発の進捗状況や今後の展望が見えにくい。 行政だけでは地域課題の解決は難しく、志や専門性を持ったボランティアや市民団体の力が必要になってくる。 高齢化によるボランティア人材の不足が課題。 岩倉団地など高齢化が進む地域では、移動手段が問題となっている。子どもにとっても安全な移動が問題。 現役世代や子育て世代をはじめ市民の参加が少ない。市民がまちづくりに参加しやすい環境づくりが課題。 生活困窮者は地域とのつながりが希薄。 地域コミュニティを基盤とした活動が大事である。 高齢化とともに、現場で活躍する福祉専門人材が不足しており、スタッフによる質のバラツキも目立つ。今後ますます深刻になってくる。 誰でも高齢になると目や耳が不自由になってくる。障害の問題は他人ごとではないが、関心が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 成年後見制度の充実が必要。 災害発生時の要援護者への避難支援。 市がビジョンを掲げて、リーダーシップをとって駅周辺の商業の活性化による賑わいづくりを進めてほしい。 公共施設のバリアフリー化を、具体的な指針を示して着実に進めてほしい。 ボランティア活動や市民活動が継続して活動しやすい環境を整えて支援してほしい。 自転車を安全に使いやすくするために、道路の整備やマナーの向上などを進めてほしい。 空き家を市民活動の場所として有効活用したい。 CSR に積極的な企業が増えており、市でも全体像を把握して、公民連携を進めてほしい。 民生委員児童委員の活動の啓もう・啓発が大事。若い時から、何らかの関わりや関心を持ってもらえるようにしたい。 ボランティア活動を知ってもらうことから始める。 子育て分野のタイアップなど、市外も含めた企業と行政の連携の推進。 障がい者や低所得者の就業面での支援。 コミュニティを必要に応じて再編してつながりを作り直す。 福祉専門職の養成のためのプログラムづくりや資金面での支援が求められる。 福祉事業所誘致を促進するための立地優遇措置などをお願いしたい。 3 市 2 町の社協が連携して、企業向けのボランティア研修を行っており、今後は商工会などと連携して町内企業向けの研修なども行っていきたい。 外出に不安を抱える視覚障がい者を、身近な人が助けることができる社会を目指したい。 音訳は、認知症の高齢者などにもニーズが広がっていくと思われる。CD プレイヤーの貸し出しを行い、音で聞く楽しさを広めたい。

■高齢者分野（5月31日（金）9：00～10：00）

団体名	団体としての活動・課題	今後 10 年間の問題点・主要課題	今後 10 年間に求められるまちづくりの取組
<ul style="list-style-type: none"> 岩倉市老人クラブ連合会 岩倉市シルバー人材センター （2 団体、延べ 8 名出席）	<ul style="list-style-type: none"> 最近の 3 年間で会員数が減少。 人口減少・超高齢化社会に対応して、自分たちの世代の福祉として、どう組織づくりしていくのか。 75 歳まで働く人が増えて、動ける会員が減少。将来的には 80 歳以上の会員のみになる恐れもある。 岩倉で生まれ育った高齢者が少ない地域は加入率が低い。 10 年後も組織が維持できるか不安。 草取りや剪定などの依頼が多く、会員が希望する仕事が確保できない。 依頼された仕事に対応できなくて断るケースも増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物や通院が困難になってくる。 一人暮らしや生活困窮の高齢者への支援が課題。 男性の自殺者が増加している。 老人クラブでも地域でも、いつも同じメンバーで、新しい人材が少ない。 管理不全の危険空き家が増えてきた。小学校の通学路にも崩れそうな空き家があつて危険。事故が心配である。 超高齢化社会に向けた早めの対策が課題。 個人のゴミ出しも、業務として請け負うと「事業系ゴミ」として扱われてコストがかかるなど、難しい問題もある。 今後は最低賃金に配慮する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 人生 100 年時代。高齢者が家から出かけて新しい仲間や知識が得られたり、憩える居場所づくりが大事。 3 世代で交流できる場所や機会を増やしたい。 自主防災の活動と連携して、高齢者の見守りや生活支援を地域に根付かせるべき。 有償ボランティアの仕組みを広げることが必要。 老人クラブの加入促進や活性化を支援してほしい。 高齢者が、自ら健康を保持して、医療・介護などのコストを抑えられるように、ボランティアなどを通じた健康・生きがいがづくりの活動を総合的に進める。 背伸びせずに、現状の平和や利便性を守っていくことが福祉ではないか。 「一日一奉仕」で、社会のために貢献する取り組みを自然体で進めるべき。 小学校での道徳教育の実践が求められる。 多機能の複合的な施設で、様々な課題やニーズによらず屋的に対応でき、高齢者の憩いの場にもある施設が必要ではないか。 高齢者の就労と生きがい、健康づくりの取組が大事。

■自然・環境分野（5月31日（金）10：30～11：30）

団体名	団体としての活動・課題	今後10年間の問題点・主要課題	今後10年間に求められるまちづくりの取組
<ul style="list-style-type: none"> 岩倉ナチュラルリストクラブ 岩倉の水辺を守る会 3Rの会 岩倉五条川桜並木保存会（4団体、延べ11名出席） 	<ul style="list-style-type: none"> 五条川に関する様々な計画策定にも関与。約40年活動を継続してきた。 寄付してもらった古布で布ぞうりを作り保育園などにプレゼントしている。一緒に作ってくれるメンバーの確保が課題。 メンバーの高齢化、活動資金の確保が課題。 五条川の桜は、台風などで傷や倒木の被害が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 五条川の外来種の植物が増えている。 人と自然の共生を進めることが課題。 現場で汗をかいてアクションすることを通じて自分事にして、みんなで守り育て活かしていきたい。 現状では、市民は無関心で、みんなで五条川を守ろうという仕組みができていない。河川沿いの住民には、自分の庭のような感覚でお世話してもらえるとありがたい。 桜並木も約70年が経過し老木化が進んでいる。 各種団体をつないで活動を展開しているが、様々な河川管理の団体の連携が不十分である。 桜の保存はボランティア団体では限界があるので、市民の協力が不可欠である。 行政機関から補助をもらうと、報告などの手間がかかり大変。 	<ul style="list-style-type: none"> 五条川の在来種の保護などの対策を行うべき。 他団体との交流を進めて意思疎通を図ることが大事。 子どもが安心して安全に五条川の植物や水生生物などと触れ合えるような親水性の高い整備が必要。 五条川もエリアによって植物を変えるなどのメリハリがあってもいい。 自然環境の変化を、しっかり記録に残していくことが大事。 市民に対して、わかりやすい提言を出し続けることが大事。例えば「フジバカマを育ててアサギマダラが飛ぶまちにしよう」など。 子どもが自然と遊び触れ合えるような教育システムを構築したい。またそれを岩倉市の魅力にしたい。 関係機関との定期的な情報交換など、コミュニケーションを密にして信頼関係をつくることが大事。 市民の理解と協力を得るには、現場を体験してもらうことが近道。 全ての桜を保存するのが難しければ、桜のない空間的に広がりのある場所があるといい。 災害対策としての意義もある。岩倉市単独では限界があるので、県や周辺市町と連携や役割分担による桜の保存・管理が求められる。 桜の廃材を活用した特産品開発など。

■文化・スポーツ・健康づくり・生涯学習分野（6月4日（火）19：00～20：00）

団体名	団体としての活動・課題	今後10年間の問題点・主要課題	今後10年間に求められるまちづくりの取組
<ul style="list-style-type: none"> 岩倉市体育協会 岩倉市文化協会 NPO法人 来未 iwakura 岩倉市保健推進員 岩倉市食の健康づくり推進員（5団体、延べ19名出席） 	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代のスポーツ離れもあり、会員数は減少している。 ボランティアで協力してくれている指導者が多忙で、仕事との両立で苦労している。 認定指導員の確保が課題。 登録団体の高齢化が進んでいる。 生涯学習センターの登録団体が減少している。団体メンバーの高齢化などが原因。新規団体の加入も少ない。 公共施設で料理教室などを行っているが、設備が古くて使いにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの体力が低下している。 マイナー競技では、なかなかメンバーが増えない。 平日に開催している各種イベントや講座は、働く女性は参加できないので、曜日・時間帯の見直しが必要。 公共施設の駐車場が少なく、慢性的に不足している。 活動団体数の維持・増加が課題。 市内活動団体の活動場所の確保が課題となっている。 団体間の連携の支援が課題。 人生100年時代において、文化・生涯学習による生きがいづくり・健康づくりは福祉にも通じる重要な課題。 才能のあるプロの音楽家が大切にされず活動しにくい。市外に出て行ってしまい、ますます高齢化が進む。 高齢者の交通事故が増加している。 高齢化が進み、地域活動へ参加・協力する住民が減少している。 各種講座に参加している人は健康な方が多い。参加されず引きこもりがちの方に、外出して健康になってもらうために、移手段の確保が課題である。 広報紙や駅の電光掲示板などを見る人が少なく、各種講座やイベントなどの情報が届いていない。 五条川沿いの路面が凸凹で歩きにくい。また、雑草なども繁茂しており、安全面からも適切な管理が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 市をあげてスポーツに力を入れて、市民の交流や健康づくりに役立てることが大事。 認定指導員などの指導者の育成が重要。 オリンピックに出るような選手を育てるため、指導者への資金的な支援も考えてほしい。 地区公民館などの未活用な公共施設の有効活用を考えたい。 合同発表会など個別団体だけではできない活動について、団体同士の連携を促して支援してほしい。 文化活動への助成金を使いやすくする。 高齢者を対象にした詐欺などへの対策として、録音機能のある電話機購入への助成など。 プロの音楽家が活躍できる環境づくりをお願いしたい。 4月の桜の時期に大勢の観光客が来るので、生涯学習センターを活用したイベントやおもてなしの場を提供したらどうか。 健幸都市岩倉の実現に向けて、生涯学習活動を支援して盛り上げるのが大事。 一人暮らし高齢者を地域で支えるために、全市的にボランティア活動を活性化させたい。 わかりやすく効果的に伝わる情報提供が大事。 健幸ロードのようにしっかり舗装した部分と、南部の自然を生かした整備と、メリハリをつけて整備したらどうか。 いろんな趣味の人が楽しめる健幸なまちを目指す。 公共交通は、周辺市町との連携も含めて便利なサービスを提供してほしい。 年金生活の高齢者が、安心して定期的に人間ドッグを利用できるように補助してほしい。 「健康づくりは我が家の食卓から」野菜を食べる健康な食生活を岩倉から積極的に発信していきたい。 プレママのランチ交流会の取組は大変好評。調理室を有効活用して活動を充実する。

■農業分野（6月5日（水）13：15～14：15）

団体名	団体としての活動・課題	今後10年間の問題点・主要課題	今後10年間に求められるまちづくりの取組
<ul style="list-style-type: none"> ・岩倉市園芸協議会 ・野菜の広場運営協議会 ・JA愛知北農産物産直部会運営協議会 ・JA愛知北岩倉支店 ・岩倉農事組合 ・岩倉市地域農業再生協議会 ・岩倉市農業振興地域整備促進協議会 ・岩倉農業体験塾 ・岩倉市名古屋コーチン振興組合 ・岩倉市農業委員会及び農地利用最適化推進委員 <p>（10団体、延べ10名出席）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の問題についてJAは全面的に支援しており、受託部会に2名が加入している。 ・アイファームというJAの別会社をつくり、そこで担い手の育成などを行っている。現在は野菜であるが、今後は水田もと考えている。 ・オペレーターも下部組織として雇用しなくてはと考えている。 ・現在、若い農業者をアイファームの水田部会が来年独立させる方向で進めている。 ・アイファームの水稲部門だけこちらにつくり、岩倉の水田を支援することにしている。 ・次世代が育つかどうかはわからない。 ・農業体験塾では、新たな農業の担い手の育成、農地の遊休化の防止を目的とした講師の指導等を行っている。 ・いろいろなイベントに参加して岩倉の名古屋コーチンをPRしている。 ・事業としては、優良農地の保全、農地転用許可、遊休農地の解消及びパートナーロールである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後10年について、メインは水田なのか畑作なのか、市としての明確な方針を示してほしい。 ・県が農地の集積と円滑化を提唱しているが、実際には機能していない。 ・集落営農まで到達せず、利用調整をする場合においても借り上げや利用権設定を誰がやるのかという課題がある。 ・農業を残すことは難しいので、そのことを踏まえた長期展望が必要ではないか。 ・オペレーター育成を含め、集落営農の可能性について、アイファームなどで継続できるような方法を考える必要がある。 ・岩倉の農業の担い手として、専業の担い手と多様な担い手を育てていく必要がある。 ・現状、農業ができない環境にある調整区域があるので、そこはきちんと線引きを見直す必要がある。 ・農振地域、市街化調整区域の主人公はあくまで、農地であることを再認識する必要がある。 ・農業は助け合いなくしては継続できないので、助け合うことについての啓蒙が必要であり、ひいては昔のような助け合い社会を復活させるべきである。 ・岩倉の農地は規模が小さく、作業がし辛い。 ・水田は畔を切れればすぐできるというものではない。岩倉の水田は小さいため、くつつけることは難しい。公的支援が必要。 ・設備の老朽化が進み、適正化を踏まえた更新を早急に取り組むことが必要である。10年後、どのくらいの農業が残るのかを勘案してインフラを考えなくてはいけない。 ・農業は収入が不安定であることから、縮小傾向にある。安定した収入が見込まれれば、就農者も増えるのではないか。 ・これまで、塾生から新たな就農者につながるケースが少なく、塾生の高齢化が進んでいる。 ・農振地域内の農地であっても、農地として維持できるかは不透明であることから、地域外の農地の規制緩和を拡大することが必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後10年のメインが畑作であれば、これから就農を目指す人たちも入りやすいのではないか。 ・遊休農地の集約について、窓口を一元化し、周知することで土地利用者も増えるのではないか。 ・農地の集積は、農家を説得して、土地を出してもらおうようにするしかなく、相続のタイミングで集約していくことが可能ではないかと思う。 ・優良農地が宅地化されるところもあれば、調整区域で農業を行える環境ではなくなっているところもあるので、整理する必要がある。取りこぼしのない施策をしてほしい。 ・農地を市民に開放するなどして、農地の有効利用を考える必要がある。 ・研修等を開いて、多様な後継者の育成を行ってほしい。 ・農事組合の支援と活性化について、住民と連携して行うべきである。 ・住民と連携し、ふれ愛まつりの継続と軽トラ市の復活をすべき。 ・農業に興味を持ってもらい後継者を育成するため、様々な農業体験講座を実施している。 ・今後、新規就農者の確保、産直により多くの品物を置いてもらう等の取組を進めたい。 ・営農ができる職員を増やし、現地に赴いて指導できるような体制づくりを整えたい。 ・機械を共有するなど、昔の助け合いの形に戻すべき。 ・農業資金の融資にも力をいれたい。 ・我々の世代はまだ、資産としての農地という意識が残っており、損をしても先祖の土地という想いがある。研修などを通じて、そういった考え方ができる後継者を育てることも岩倉としては必要ではないか。 ・水田の管理については、助け合いが必要ではあるが、水田を持っている人がやることになっており、行政の土地であれば行政が管理してくれという意見もある。難しい。 ・農業に関わる地域の力が弱まっているため、農事組合を活性化させることが必要。 ・名古屋コーチンを岩倉の特産物として頑張っていきたい。 ・鶏の臭いについては、環境問題として県とも相談して取り組んでいきたい。

■商工・観光分野（6月5日（水）14：45～15：45）

団体名	団体としての活動・課題	今後10年間の問題点・主要課題	今後10年間に求められるまちづくりの取組
<ul style="list-style-type: none"> ・岩倉市商工会 ・岩倉市商工会女性部 ・岩倉青年会議所 ・いわくら観光振興会 ・いわくら塾 (5団体、延べ7名出席) 	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会がイベントだけやっていると いうのは一般市民の考えで、比率と しては少しであるので、誤解を解く べきと思っている。 ・現在、観光ボランティアを行っている が、観光案内を引き継いでくれる 人が出てきてくれるかが課題であ る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岩倉市内の店舗は所有者と利用者が別というケースが多い。地主の協力がなければ無理である。 ・後継者がいないために事業や店舗をやめるところがある。そこから商品を仕入れている事業所がM&Aを行えば良いようにも思うが、実際は他で安く仕入れることができるので、そこまでは行わない。 ・空き店舗について需要はあるものの供給は追いつかない。貸す側が知らない人に貸して、トラブルに巻き込まれたくないということがある。 ・岩倉駅東を商業地にするのは難しい。買い物では、岩倉から10～20分で名古屋駅に着いてしまう。 ・まちに人を呼ぼうと一生懸命やっているところもあるが、そういった人たちがどれ程いるだろうか。 ・駅前の賑わいという点であればこれもやろうとしても無理があると思う。 ・桜の寿命は60年であるが、桜並木は既に70年が経過している。若い世代が桜並木を維持する取り組みが必要である。 ・空き店舗について、家主が困ったことがないため、発展しない。 ・岩倉の物件は高くて手が届かなかったという声がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内での買い物について、自家用車がなくても買い物できるような取組をしてほしい。 ・岩倉ブランドの作成ということで、岩倉市内の農作物を活用した商品づくりを行う。 ・のぼりなどを国や県の伝統産業の認定を受けることで、ブランド力を付ける。 ・岩倉総合高校との産学連携で商品開発を行う。 ・大型ショッピングモールを誘致し、活性化を図る。 ・リニア開通を受け、岩倉をどのようなまちにするか考え、名古屋への利便性や土地の安さを強調し、企業、事務所を誘致する。 ・五条川の桜に代わる観光産業を今のうちに考えておく必要がある。 ・桜まつりで40万人が来れば、やり方次第ではそれなりの消費が生まれる。アンケートでは土産が無いという意見もあり、土産物を買えば、地元で金が落ちるのではないか。 ・廃業が多く、新しい店舗が入ってこない。市外、県外問わず魅力ある店舗に入ってもらい、まちを元気にしたい。 ・働く女性のため、起業を志す女性のため、一定の収入が得られるまでの間、子どもを預かってもらえるような保育所をつくってほしい。 ・外国人との交流は自己資金では難しいため、行政がNPOに助言や資金援助をし、その上に皆が乗る形で実現すると考える。 ・岩倉に行けばこれがあるといったような特徴ある店を集める。 ・桜通り線を使ってチャンバラをやったが、テレビ番組の「逃走中」のように、岩倉の市街地を使ったチャンバラ合戦のイベントができないか。 ・桜まつりには大勢の観光客がくるので、岩倉らしい土産を開発し、販売すべきだと思う。

■安全安心・交流分野（6月5日（水）16：15～17：15）

団体名	団体としての活動・課題	今後10年間の問題点・主要課題	今後10年間に求められるまちづくりの取組
<ul style="list-style-type: none"> ・岩倉市婦人会 ・岩倉市消費生活モニター ・岩倉防災ボランティアの会 ・いわくら認知症ケアアドバイザー会 (4団体、11名出席) 	<ul style="list-style-type: none"> ・任意加入となり若い人の参加がない。 ・昼間の活動が多く、仕事との両立は難しい。 ・会員の高齢化が進んでいる。 ・婦人会活動が高齢者の外出のきっかけになればよい ・役員のみ手がいない。 ・若い世代への認知度を高める。参加してもらおう。 ・モニター参加。 ・防災・減災啓発。 ・サポーターの実活動を行うこと。 ・活動の認知度が低い。PRが重要。 ・これまでの活動は行政に支援をしてもらえたから続けてきている。今後も協働で進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・増加している外国人対応。 ・若い世帯の移住。 ・里帰り出産時の上の子どもの預け先がない。 ・避難所生活が長くなったことを想定した対策を考えたい。 ・防災訓練でも若い人の参加は少ない ・避難所・福祉避難所の認知度を上げることが重要である。 ・要介護認定の人に、福祉避難所を知ってもらうことが重要。 ・障がい児者や発達障害児者では障がいの種類によっても必要な支援が異なる。専門家とつながることが重要である。 ・行政が企業と災害時の支援の締結をしているが、実際の有事に機能するかどうか課題である。 ・認知症になっても安心して暮らしていけるまちづくりをめざすことは10年後も変わらない。そのための活動をもっとしていかなければいけない。 ・お金の介護、つまり判断力が低下しても適切にお金を使える仕組みづくり。コンビニ、スーパー、交通機関等が連携し、認知症で迷っても安心して楽しめる。また、詐欺から守られ、生活に必要なお金の手続きができる金融機関。 ・認知症については、家族のケアや地域の見守りが重要である。 ・地域福祉計画は小学校区ごとになっている。地図などもまとめられている。それらを活用しながら、防災のことなども考えていけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害などのいざというときに備えるためにも『向こう三軒両隣』のコミュニケーションを図っていきたい。 ・女性の視点で考える防災に取り組みたい。自分たちでできることを見つけ、行政にも協力してもらい、活動の場を広げていきたいと思う。 ・女性の視点で考える防災、避難所（トイレや間仕切り等）について考えていきたい。 ・各町の高齢者の余暇が楽しめる場が必要である。 ・岩倉市に起こりうる災害のシミュレーションの作成（実際に起こった阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震などを参考に）。シミュレーションをもとに、市担当部局と具体的な対策を研究したい ・福祉避難所となる病院や介護施設と行政との合同の避難訓練ができるとよい。 ・防災訓練に多くの市民が参加できるように工夫してほしい（時間、内容等） ・要支援者（福祉避難所）の具体的なありようをPRしてほしい。 ・デマなどの偽情報に基づくパニックをなくせるようなシステムを作りたい。正しい情報を速やかに流せるようなシステムを作りたい。 ・被災した場合を想定して、各地域のニーズに合った手助けを考えていきたい。 ・手続き、相談、支援体制に関するワンストップサービス（総合相談窓口）が必要である。 ・地域コミュニティの活性化。施設の有効利用、防犯・防災での人と人のつながり等、コミュニティで問題提起し、解決が図れるとよい。 ・認知症サポーターのステップアップ講座。 ・ケアドカフェの継続

■子育て・教育分野（6月5日（水）19：00～20：00）

団体名	団体としての活動・課題	今後10年間の問題点・主要課題	今後10年間に求められるまちづくりの取組
<ul style="list-style-type: none"> ・岩倉市小中学校PTA 連合会 ・岩倉市子ども会連絡協議会 ・岩倉ボランティアサークル（IVC） ・岩倉市児童館母親クラブ ・岩倉市学童保育父母の会連絡会 ・岩倉市保育園父母の会連絡会 <p>（6団体、延べ15名出席）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年役員が変わる。 ・教員と相談して子どもたちが安心して過ごせるようにしている。 ・親の共働きや外国人の増加等によって加入率が悪くなっている。 ・親の仕事の関係で役員のなり手が少なくなっている。何とかしたい。 ・老人クラブ等と日頃からの関係を構築するようにしている。 ・メンバーは学生が多いため、部活や勉強で参加できる時間が少なくなっている。 ・安全対策に課題もあるのでは。 ・役員の負担が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが危険にさらされることも多いので、学校や親も協力して見守りをしているが、どれだけやっても安心できるという確証はない。 ・学校の勉強も大事だが、お兄さんやお姉さんといった縦の関係でもまれて生きる力を培うことが重要と見直されている。 ・公共施設、希望の家等身近で野外活動ができる施設は、近隣にも見当たらない。しかし、老朽化でどうするかという話も出てきている。 ・公園、公民館等、子どもと一緒に活動できる場所が減少。 ・希望の家があったからこそ、このような活動が続けてこられたと思っている。 ・活動場所の希望の家と自然生態園を結ぶ経路は歩道が狭く、トラックも通り子どもを移動させることが危ない。 ・市外での活動が多くなっているが、移動手段は自転車であり、安全の確保が重要になっている。 ・児童クラブに子どもを預けて、親が安心して働ける状況が当たり前になって、市職員の負担が増えている。 ・子育て情報や病児保育などの情報提供は不十分である。 ・アンケート調査からの請願ではなく、市と気軽に話せる関係づくり、保護者が参加しやすい環境・機会をつくることが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の見守りの一環として防犯カメラを増やす等も力を入れてほしい。 ・岩倉市ならではの、こいのぼり、桜、水であり、岩倉で育ったことを誇りに思えるようなイベントは、雨天の場合中止ではなく、延期などで再度開催してほしい。 ・地区の子ども会を復活させるためにPTAと話をして取り組んだが、難しい。行政の力を借りたい。 ・外国人の親に子ども会を理解してもらうために親の教育が必要である。説明会を開く、外国語の説明資料を配布するなどが必要である。 ・子ども会加入促進の冊子を作っている自治体もある。（例：日進）。一団体ではできない。行政とPRしていきたい。 ・防犯カメラは犯罪の抑止になるような設置の仕方（看板を大きく等）をしてほしい。 ・子どものために岩倉らしい規模の大きなイベントを行政と一緒にやりたい。 ・地域の危険個所の共有はしている。 ・夜も明るくなることでできなくなった活動もある。自然環境の保全も重要である。 ・アンケート調査をして要望書を出すよりも、市との話し合いの場があれば、役員の負担感が減る。 ・保育園や認定こども園の苦情窓口を第三者機関として設置してほしい。 ・市民、保育士を対象とするセミナーが開催できるとよい。 ・子どもの安全のために、歩道と車道の道幅の見直しをしてほしい。 ・歩道の道幅を十分に確保するためには無電柱化してほしい。

■福祉・ボランティア分野（6月10日（月）13：30～15：00）

団体名	団体としての活動・課題	今後10年間の問題点・主要課題	今後10年間に求められるまちづくりの取組
<p>いわくら福祉市民会議 （地域福祉計画推進委員） （1団体、21名出席）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各校区で、地域福祉を担う人材が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・独居への不安が高まっている。 ・地域を支える人材が不足している。 ・運転免許返納後の移動手段 ・地域格差が拡大している。 ・担い手不足や役員の高齢化などにより、区政の運営が困難になっている。 ・公共交通が行き届いていないが、駅の利便性は高い。 ・空き家の増加による対策不足。 ・子どもがまちに定着しない、若い人の受け皿がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊休農地を活用した、高齢者の生きがいづくりなど。 ・地域コミュニティの活性化、市民が楽しめるイベントや公園の充実が必要。 ・農地を活用した住宅地整備や企業誘致、幹線道路整備を計画的に進めてほしい。 ・若い子育て世代の転入（移住）促進を図りたい。 ・区の単位が大きいので、見直しが必要ではないか。 ・区長の仕事の増加による定年延長なども考えたらどうか。